



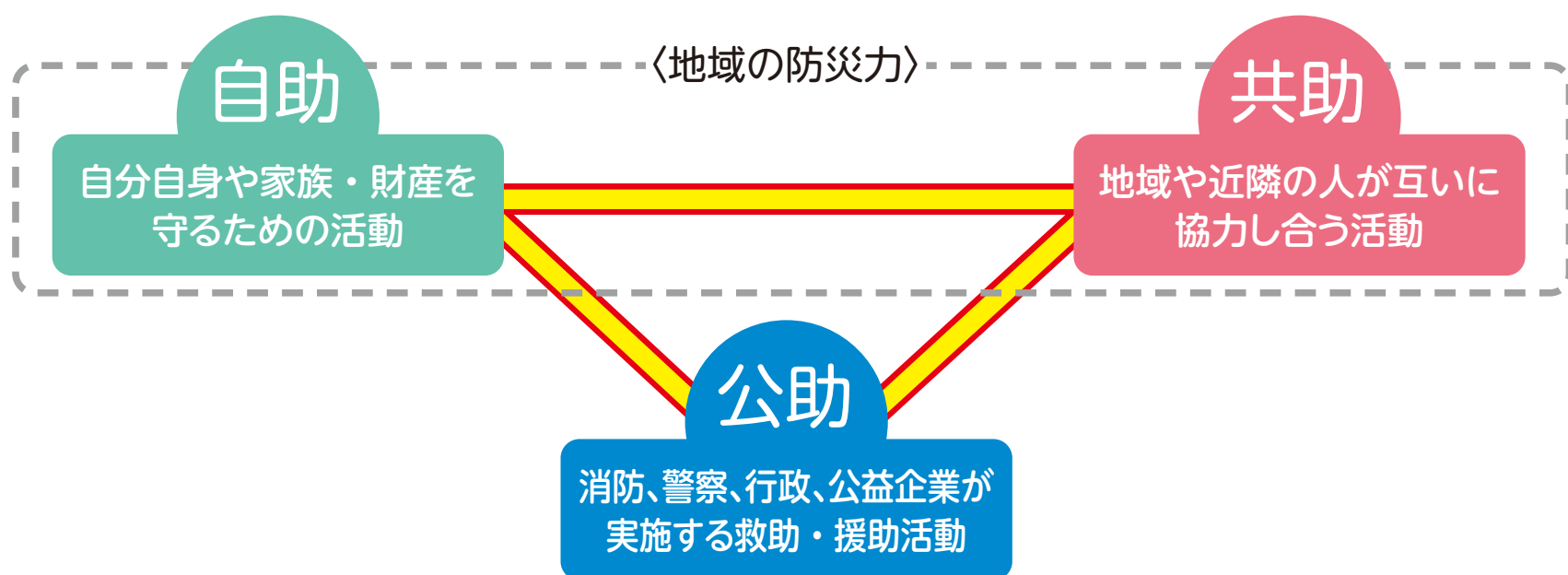
市民の皆様へ

「南島原市防災マップ」発行によせて

このたび市民の皆様には風水害や地震に関する情報を提供し、災害に対して事前の備えに役立てていただくことを目的に「南島原市 防災マップ」を作成いたしました。

近年、線状降水帯による顕著な大雨によって、毎年のように数多くの甚大な災害が生じています。発生メカニズムに未解明な点も多く予測が難しいため、日頃の備えや緊急連絡体制の整備が重要となります。

本市では「災害に強いまちづくり」を主要な施策として掲げ、様々な防災・減災の取り組みを進めておりますが、ひとたび発生した災害から自らを、そして地域を守るためには、何よりも市民の皆様一人ひとりに防災意識を高めていただき、自主防災組織や消防団の活動を活発化させておく必要があります。



この「防災マップ」は、浸水想定区域、土砂災害危険箇所や避難所などを掲載しており、様々な災害に対する知識と備えをまとめておりますので、ご家族で災害対策について話し合ってください際にぜひともご利用いただくとともに、自主防災組織などの活動にも役立てていただきますようお願いいたします。

結びに、この「防災マップ」を通じて、市民の皆様と行政が連携・協力し「災害に強いまちづくり」の実現にむけて、全力をあげて取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



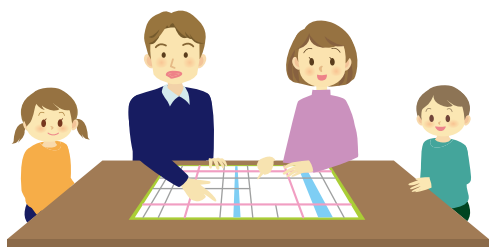
防災マップの使い方と避難

この防災マップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

防災マップの使い方

● まず、自宅の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所、自宅を建築・賃貸される際はどのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



● 次に、避難所の確認をしましょう。

各地区に優先的に開設する避難所を設定しています。避難所一覧および地図上には赤太文字で表記しています。

地図をみて確認しましょう。



● 災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



● 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



目次

- 防災マップの使い方と避難 1
- 避難情報 2
- 土砂災害 3
- 洪水 4
- 風水害・台風 5
- 火災 6
- 地震による災害 7
- 雲仙岳の噴火警戒レベル 8
- 津波 9
- 防災対策&チェック 10
- 非常時持ち出し品の準備&チェック 11
- 避難所・避難場所一覧表 12~13
- 避難時の注意点 14
- 災害時の緊急連絡について 15
- 津波ハザードマップ 16~17
- 自主防災組織 18
- 家庭での備えされてますか? 19
- 特別警報をご存知ですか? 20



避難情報

集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をするべきか？それぞれの状況に応じて避難できるよう、災害発生危険度と住民の方々が取るべき行動を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えします。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	避難情報等	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
5 相当	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
〜警戒レベル4までに必ず避難!〜							
4 相当	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
3 相当	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難※2	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
2 相当	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認する	大雨・洪水・土砂災害 高潮注意報(気象庁)	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
1 相当	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報(気象庁)	早期注意情報			

〜各種の情報は、警戒レベル1〜5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。〜

- ※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。また、警戒レベル相当情報(氾濫発生情報、土砂災害警戒情報など)が発表されたとしても、必ずしも同時刻に同じレベルの避難情報が発令されるものではありません。
- ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

- ❗ ハザードマップを確認し、自宅の災害リスクと、取るべき行動を確認しましょう。
- ❗ 「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
屋内で安全を確保することも考えられます。

※屋内安全確保は「3つの条件」を満たす場合に検討する行動です。詳細は裏面を確認しましょう。



ハザードマップポータルサイト

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません。

警戒レベル4避難指示までに自らの判断で危険な場所から全員避難しましょう。
※避難勧告は廃止されました。(令和3年5月20日から)

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

大雨のとき

各河川ごとの水位基準が避難を要する水位に達したときや、県と気象庁が共同で土砂災害警戒情報を発表したときに高齢者等避難、避難指示を発令します。



大雨のときの避難行動 避難は災害から命を守るための行動です。次の全ての行動を大雨による災害から身を守る避難行動とします。

屋外が安全で移動できる状態のとき			屋外が危険な状態などのとき
1 指定避難所への移動	2 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所へ避難(公園、親戚や友人の家等)	3 近隣の強固で高い建物等への移動	4 建物内の安全な場所での待避(家屋内の垂直避難) やむをえず家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として水害対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い部屋への移動が有効です。

特に、河川氾濫の浸水地域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。

地震のとき

大きな地震に伴って、建物の倒壊の危険や火災発生のため、避難が必要なときや、土砂災害の危険が切迫しているとき、または危険物取扱施設の爆発など、二次災害が発生する恐れがあるときに高齢者等避難、避難指示を発令します。



火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに高齢者等避難、避難指示を発令します。

その他

災害が発生するおそれがあるときに高齢者等避難、避難指示を発令します。

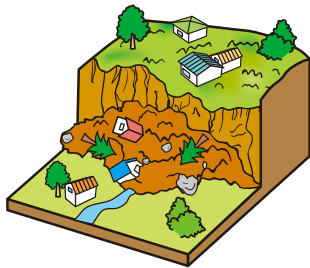


土砂災害

土砂災害の前触れに注意し、気がついた場合には速やかに避難しましょう!

土砂災害の種類

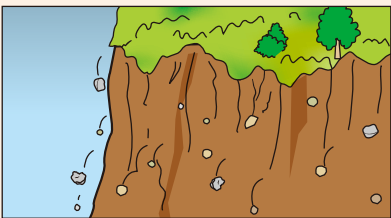
● 急傾斜地崩壊 (がけ崩れ)



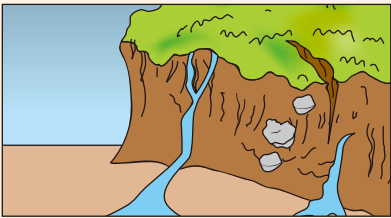
がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。

予兆現象

- がけから小石がぱらぱら落ちてくる



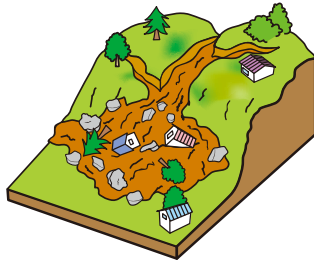
- がけから水が湧き出る



- がけに割れ目が見える



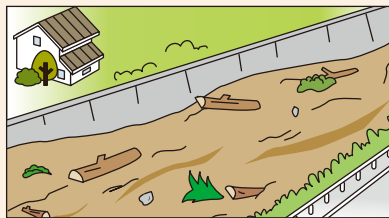
● 土石流



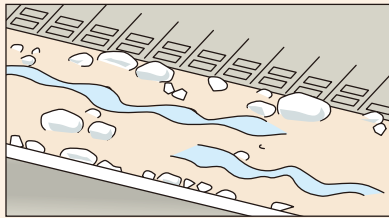
土石流は、谷筋で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合って流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。

予兆現象

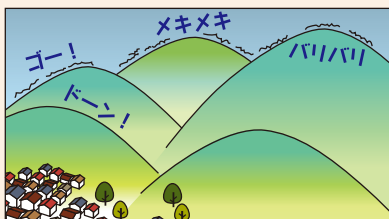
- 急に川の水がにごり流木が混ざる



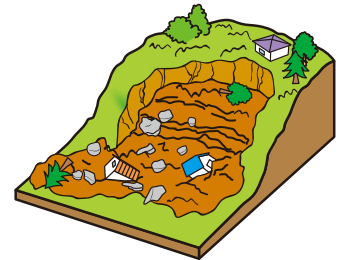
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



- 山鳴りがする



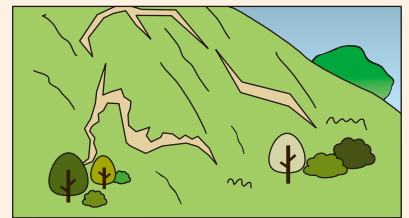
● 地すべり



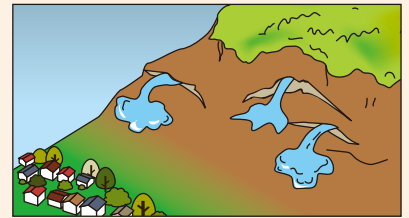
地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、発生すると広い範囲で道路や建物に被害をもたらします。

予兆現象

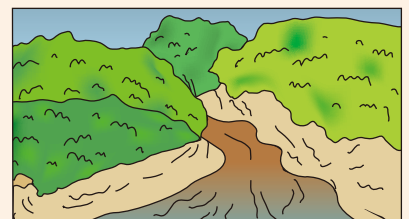
- 地面にひび割れができる



- 斜面から水が噴き出す



- 沢や井戸の水がにごる



危険箇所

● 土石流危険渓流とは・・・

土石流の発生する恐れがある渓流で、人家(人家が無くても官公署、学校、病院及び社会福祉施設等の災害時援護者関連施設・駅・旅館・発電所等の公共施設がある場合を含む)に被害を及ぼす恐れがある渓流をいいます。

● 急傾斜地崩壊危険箇所とは・・・

勾配30°以上、高さ5m以上の急傾斜地で、人家(人家が無くても官公署、学校、病院及び社会福祉施設等の災害時援護者関連施設・駅・旅館・発電所等の公共施設がある場合を含む)に被害を及ぼす恐れがある箇所をいいます。

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域について

県では、土砂災害のおそれがある区域を「土砂災害警戒区域(イエローゾーン)」に、さらにそのなかでも建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域を「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」に指定しています。

住まいがある土地が警戒区域に入っていないかハザードマップで確認しておき、家が当該区域にある場合は早めに避難するようにしてください。

- 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)・・・ 土石流・がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。
- 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)・・・ 土石流・がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れがあると認められる区域。



洪水

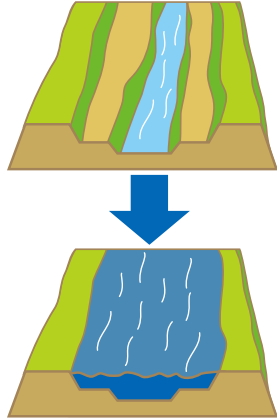
強い雨が広範囲に、長時間続くときに、洪水災害が発生する危険性が高まります。
発生メカニズムを知り、堤防決壊の前兆に注意しましょう！

洪水の基礎知識

● 洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんがそれがふだんの姿です。

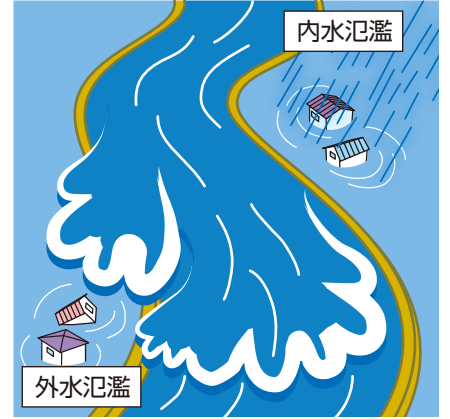
ところが川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



● 氾濫

川から水があふれることを「外水氾濫」といいます。

川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨の排水が追いつかずたまってあふれることを「内水氾濫」といいます。



右記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう。

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうとき
- 水が激流となって堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき

河川水位及び危険度レベル

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

危険度レベルと水位の関係	市や住民に求める行動
レベル5=氾濫の発生 避難完了	<ul style="list-style-type: none"> ● 逃げ遅れた住民の救済 ● 住民は避難を完了する段階です。
レベル4 氾濫危険水位 避難指示の発令	<ul style="list-style-type: none"> ● 市は避難指示の発令を行う段階です。 ● 住民は適切な避難行動を行う段階です。
レベル3 避難判断水位 高齢者等避難の発令	<ul style="list-style-type: none"> ● 市は高齢者等避難の発令を行う段階です。 ● 高齢者等避難に時間を要する方は適切な避難行動を行う段階です。
レベル2 氾濫注意水位 水防団(消防団)の出動	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民は氾濫に関する情報に注意が必要です。 ● 水防団(消防団)は、出動する段階です。
レベル1 水防団(消防団)待機水位 水防団(消防団)の待機	<ul style="list-style-type: none"> ● 水防団(消防団)は、待機する段階です。

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応



長崎県の河川の水位情報がご覧になれます。
長崎県河川・砂防情報システム(河川水位・ダム情報・雨量・土砂災害情報)
<http://www.kasen-sabo.pref.nagasaki.jp/nagasaki/main/index.php>



風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策

特別警報・警報・注意情報などの防災気象情報

大雨特別警報	何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保。
土砂災害警戒情報・高潮特別警報・高潮警報	自治体からの避難指示の発令に留意。避難指示が発令されていなくてもキキル(危険度分布)等を参考に自ら避難の判断。
大雨警報・洪水警報・高潮注意報	自治体からの高齢者等避難の発令に留意。高齢者等以外の方もキキル(危険度分布)等を用いて避難の準備をしたり自ら避難の判断。
大雨注意報・洪水注意報・高潮注意報	ハザードマップ等により、災害が想定される区域や避難先、避難経路を確認。
早期注意情報	最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高める。

● 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上~20mm未満	20mm 以上~30mm 未満	30mm 以上~50mm 未満	50mm 以上~80mm 未満	80mm 以上~
ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。地面一面に水たまりができる。	どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。地面一面に水たまりができる。	バケツをひっくり返したように降る。傘をさしてもぬれる。道路が川のようになる。	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。傘は全く役に立たなくなる。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。傘は全く役に立たなくなる。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。

● 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~25m/秒未満	25m/秒以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。何かにつかまないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。

● 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km 以上~800km 未満	強い	33m/秒 以上~44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上~54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

● 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。

- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

